No.	研究期間	研究タイプ	領域	研究機関名	研究代表者名	研究課題名
1	3年	探索	A	大阪公立大学	大谷 直子	ミトコンドリアの機能タンパク質を標的とした非アルコール性脂肪性肝炎関連肝がんの新規治療戦略
2	3年	探索	A	愛知医科大学	丸山 健太	Piezo1シグナルによる大腸癌の進展制御に関する研究開発
3	3年	探索	A	名古屋市立大学	川内 大輔	エピゲノムの理解に基づく小児脳腫瘍の新規治療標的の同定を目指した研究開発
4	3年	探索	A	東京科学大学	清水 重臣	がん特異的接着分子を分子標的とした抗がん核酸医薬開発
5	2年	応用	A	藤田医科大学	北林 一生	エピゲノム制御因子を標的としたがん治療薬の研究開発
6	2年	応用	A	大阪大学	菊池 章	GREB1を標的とした新規抗がん剤の研究開発
7	2年	応用	A	東京大学	秋山 徹	がん微小環境を標的としたがん・がん悪液質に対する新規治療薬の研究開発
8	2年	応用	A	金沢大学	高橋 智聡	SUCLA2欠失がんの治療薬開発と臨床応用に向けた展開
9	2年	次世代PI	A	神戸医療産業都市推進機構	西村 耕太郎	RNA修飾を標的とする新規の白血病治療戦略の創出
10	2年	次世代PI	A	がん研究会	高橋 元子	Plk1作動薬による染色体動態の破綻を介したがん細胞増殖制御法の開発
11	2年	次世代PI	A	順天堂大学	砂田 成章	硫酸転移酵素を標的とした悪性中皮腫に対する新規プロドラッグの開発
12	3年	探索	B	福井大学	木戸屋 浩康	血管新生阻害剤への治療抵抗性を克服するがん治療法の検証
13	3年	探索	B	医薬基盤・健康・栄養研究所	吉丸 哲郎	がん抑制因子の長期持続薬効を利用した治療耐性乳がん治療法の確立
14	3年	探索	B	愛知県がんセンター（研究所）	青木 正博	大腸がん幹細胞の未分化性制御機構を標的とした治療戦略の研究開発
15	3年	探索	B	北海道大学	園下 将大	代謝制御因子を標的とする新規膵がん治療法の開発
16	2年	応用	B	東京大学	山田 泰広	細胞運命に着目した薬剤スクリーニングによる骨肉腫治療戦略の開発
17	2年	応用	B	東京大学	藤堂 具紀	がん生物学とウイルス学の融合による抗がんウイルス創薬システムの開発と応用
18	2年	応用	B	国立がん研究センター	中奥 敬史	肺がんにおけるRNA多様性とゲノム異常の統合解析に基づく新規治療法の開発
19	2年	次世代PI	B	東京科学大学	持田 祐希	悪性脳腫瘍の高度治療抵抗性を克服する次世代ADCの開発
20	2年	次世代PI	B	国立がん研究センター	河知 あすか	肉腫ドライバー遺伝子のRNA安定性制御に着目した最適化核酸医療の開発と薬物動態解析
21	2年	次世代PI	B	東京大学	野本 貴大	ホウ素化アミノ酸と機能性高分子の融合により腫瘍選択的集積・滞留性を飛躍的に高めたホウ素中性子捕捉療法用新規製剤の開発
22	3年	探索	C	京都大学	中西 祐貴	間質リッチ大腸がんに対する“微小環境改変免疫療法”の研究開発
23	3年	探索	C	京都大学	竹内 理	核酸医薬によるT細胞活性化を介した癌免疫療法の開発
24	3年	探索	C	札幌医科大学	鳥越 俊彦	がん幹細胞特異的CTL誘導性PLNP-mRNAワクチンの開発研究

No.	研究期間	研究タイプ	領域	研究機関名	研究代表者名	研究課題名
25	3年	探索	C	国立がん研究センター	小山 正平	プライミング相の免疫調節による治療効果持続型の新規免疫療法戦略の開発
26	2年	応用	C	京都大学	茶本 健司	活性化アルデヒドを軸とした腫瘍内代謝疲弊の改善とがん免疫治療への応用
27	2年	応用	C	慶應義塾大学	籠谷 勇紀	エピジェネティクス再構成による終末分化・疲弊に耐性を持つCAR-T細胞の開発
28	2年	応用	C	東京大学	早河 翼	腫瘍特異的マンノースによる糖鎖免疫チェックポイントを標的とした新規癌治療法の開発
29	2年	応用	C	名古屋大学	榎本 篤	線維芽細胞形質変換による免疫チェックポイント阻害薬リチャレンジ療法の開発
30	2年	次世代PI	C	京都大学	瀬海 美穂	超早期の膵臓がん病変におけるがん細胞とマクロファージの相互作用の理解に基づいた革新的予防的治療法の研究開発
31	2年	次世代PI	C	がん研究会	北嶋 俊輔	メチオニン経路によるSTING/MAVSを介した抗腫瘍免疫制御機構の解明および治療応用
32	2年	次世代PI	C	岡山大学	石野 貴雅	腫瘍微小環境のミトコンドリア代謝異常とエピゲノム変化の関係解明と新規治療開発
33	3年	探索	D	京都大学	野中 元裕	免疫チェックポイント阻害剤で誘導される肺臓炎の早期診断薬の開発
34	3年	探索	D	近畿大学	林 秀敏	患者血液検体を用いたミトコンドリア異常と免疫チェックポイント阻害薬の治療効果との関連について明らかにする後方視的研究
35	3年	探索	D	がん研究会	斉藤 典子	非翻訳RNA複合体の検出による乳がん晩期再発の早期診断・予測バイオマーカーの開発
36	2年	応用	D	大阪大学	谷内田 真一	食事、腸内細菌、炎症の多面的解析に基づく若年発症大腸癌の本態解明と易罹患性・早期診断検査法の開発
37	2年	応用	D	日本医科大学	本田 一文	膵がん・大腸がんの発症リスク予測血液バイオマーカーの開発
38	2年	応用	D	名古屋市立大学	田口 歩	高感度血漿プロテオミクスに基づく膵癌早期診断法の開発
39	2年	応用	D	名古屋大学	横井 暁	EVシートによる革新的がん診療バイオマーカー開発研究
40	2年	次世代PI	D	京都大学	横山 顕礼	頬粘膜スワブによる食道発がんリスク層別化モデルの開発
41	2年	次世代PI	D	名古屋大学	天野 日出	神経芽腫拡大マススクリーニングのエビデンス創出を目指した、悪性度層別化マーカー濾紙血定量法の構築とバリデーション
42	2年	次世代PI	D	がん研究会	芳賀 淑美	肺がん免疫療法のための治療効果予測バイオマーカーの開発
43	3年	探索	E	国立がん研究センター	鈴木 啓道	マルチオミクスデータと数理モデル・深層学習を用いた膠芽腫に対する時間的・空間的な不均一性の解明と治療標的の同定
44	3年	探索	E	金沢大学	大島 浩子	胆管がん発生における線維性微小環境制御機構の探索
45	3年	探索	E	名古屋大学	清井 仁	造血器腫瘍における臓器浸潤と治療抵抗性を規定する分子病態の同定と治療標的としての妥当性を検証する研究
46	3年	探索	E	国立がん研究センター	武田 はるな	遺伝学的手法を用いた大腸がん治療標的の網羅的探索
47	2年	応用	E	京都大学	小川 誠司	早期発がん過程の解明によるがんの予防、早期診断・介入技術の構築
48	2年	応用	E	京都大学	滝田 順子	再発小児がんの多様性に立脚した新規克服法の開発

No.	研究期間	研究タイプ	領域	研究機関名	研究代表者名	研究課題名
49	2年	応用	E	北海道大学	田中 伸哉	ハイドロゲルニッシェによるがん多様性制御と医療応用基盤開発
50	2年	応用	E	大阪大学	高倉 伸幸	新規LPA4アゴニストによる腫瘍血管制御
51	2年	次世代PI	E	東京大学	山岸 誠	治療反応性に関わる遺伝子翻訳及び代謝活性の腫瘍内不均一性の全体像解明と創薬シーズ探索
52	2年	次世代PI	E	京都府立医科大	福本 毅	iPS細胞を用いた老化関連皮膚がんの革新的治療戦略の開発
53	2年	次世代PI	E	がん研究会	坂原 瑞穂	細胞多様性に関連した免疫回避機構理解に基づく大腸がん新規治療戦略の開発
54	3年	戦略	RI	国立がん研究センター	藤井博史	難治性膵臓がんに対するアルファ線核医学治療に資する二重特異ペプチドの開発
55	3年	戦略	RI	理化学研究所	福地　知則	核種識別可能なリアルタイムα線ラジオグラフィの研究開発
56	3年	戦略	RI	国立がん研究センター	髙島　大輝	放射性医薬品の物性並びに動態制御に資する新規抗体修飾技術の開発
57	3年	戦略	RI	京都大学	小野　正博	新規225Ac標識薬剤の創出を加速する次世代がんセラノスティクスプラットフォームの開発
58	3年	戦略	RI	福島県立医科大学	鷲山　幸信	アスタチン-211と金マイクロスフィアを用いたIVR手法による原発性および転移性肝がんの局所内放射線治療の研究開発